

彼女は斯うして就職した。 —女性のための就職案内書

平成8年5月28日～6月21日

ここ数年、女子学生の就職難が問題になっています。学校を卒業しても就職口がない、と多くの女子学生は不安に陥り、出版社はその不安に乗じて多数の案内本を出版しています。面接試験でどのようにふるまえば有利か、どんな仕事が自分にむいているか、そして女性がはたらくとはどういうことか—。今回の展示では、明治から現代までの女性のための就職案内書をご紹介します。「職業婦人」の時代から「女子大生就職氷河期」の時代まで、様々な就職案内書によって、女性の労働について考えを深くしていただければ幸いです。

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

[明治]

1. 女子の新職業

手島益雄著 東京 新公論社、新婦人社 1908(M41).5 <YDM41584>

2. 女子職業案内

近藤正一著 東京 博文館 1906(M39).7 <YDM41580>

3. 婦人と職業

家庭(叢書第10巻)東京 民友社 1895(M28).4 <YDM41614>

4. 婦人職業案内

林恕哉著 東京 文学同志会 1897(M30).7 <YDM41581>

5. 女子の新職業

木下祥眞編 東京 内外出版協会 1905(M38).7 <YDM41583>

[大正～昭和戦前期]

6. 婦人職業戦線の展望

東京市役所編 東京 白鳳社 1932(S7).1 <600-285>

7. 彼と彼女は斯うして就職した

読売新聞社社会部著 東京 文明社 1931(S6).3 <607-315>

8. 東京女子就職案内

東京女子就職指導会編 東京 <700-40>
東京女子就職指導会 1936(S11).2

9. 女学校から職業へ

新川正一著 東京 交蘭社 1931(S6).5 <299-70>

10. 職業婦人物語

前田一著 東京 東洋経済出版部 1929(S4).4 <599-5>

11. 現代婦人職業案内

(主婦の友婦人家庭叢書第一篇) <548-28>
主婦の友社編集局編 1926(T15).3

12. 適世男女職業選定知識

坪江一二著 東京 寶文社 1925(T14).3 <530-100>

13. 婦人の職業

増尾辰政著 大阪 中央職業研究所 1928(S3).7 <583-24>

[昭和戦後期]

14. 婦人の職業案内—資格を要する職業—

労働省婦人少年局編 <367.9-R64h>
東京 大蔵省印刷局 1958(S33).9

-
15. 女子就職必携
雄山閣出版株式会社編 <335.95-Y999z>
東京 雄山閣出版株式会社 1956(S31).9
16. あなたがえらぶ 100 職種
労働省編 東京 大蔵省印刷局 1967(S42).8 <366.2-R64a>
17. 「大卒・短大卒女子学生のための就職情報」
就職ジャーナル 第3巻第8号 <Z6-494>
東京 日本リクルートセンター 1970(S45).8
18. 新しい職業 女性の就職案内
初村顕太郎著 東京 北辰堂 1960(S35).2 <367.9-H349a>
19. 学窓から実社会へ 若き女性の就職案内
宝田寅雄著 東京 学芸図書出版社 1952(S27).4 <335.95-M987g>
20. 女子職業ガイドブック
大沢豊実著 東京 金園社 1962(S37).7 <367.9-O789z>
- [平成]
21. 女性の仕事全カタログ 今こそ適職発見！ 1994
東京 自由国民社 1994(H6).3 <Z6-494>
22. 私たちの就職手帖 96 年度版
『私たちの就職手帖』編集部編 <Z41-B75>
東京 WAVE出版 1994(H6).12
23. 女子学生のための業界研究
銀行編、コンピュータ編(ハード&ソフト)、新聞・出版編
女子学生就職研究会編 東京 自由国民社 1993(H5).4 <FD39-E38>
24. 夏までに決める！ 女子学生の就職必勝本
日経アドレ別冊 <Z6-3603>
東京 日経ホーム出版社 1995(H7).5
-

解説

明治

「女工」は、工場での指導者を育てる目的ではじまったが、民間に払い下げられた明治10年ごろから「女工哀史」の様相を呈してきた。自ら進んで職業を選択するかどうかという点では、「女工」と職業案内書を利用する女性との間には大きな差があるといえる。

その後日清戦争などの社会的変化により、女子教育が盛んになり、女性の就業が社会的に認められるようになったため、明治30年頃からは職業案内書が出版されるようになった。

4. あげられている職業は内職がほとんどで、ほかに女工、産婆など。教員が最後にふれられている。

大正～昭和戦前期

大正デモクラシーによる女性の自意識、関東大震災等による生活維持の必要性から、女性労働者が急激に増加した。いわゆる「職業婦人」はこのころの言葉である。「職業婦人」というと、雇用されていて通勤する事務的仕事をする女性のイメージだが、案内書では肉体(体力)・技術・智能(智力)の3分類がよく用いられ、肉体的職業にはエレベーターガールなど、技術的職業には電話交換手などが含まれるように、必ずしも事務的仕事だけを指すのではないことがわかる。なお、日中戦争に入ると職業選択の自由はせばまり、就職案内書はみられなくなる。

6. 「エアガール」「ガソリンガール」「麻雀ガール」など、職業名に「ガール」をつけるのが流行した。

7. 実話で構成された本。巻末には「就職試験問題集」として過去の新聞社の試験問題が収録されている。

8・9. 各職業の案内の際、肉体(体力)・技術・智能(智力)の3分類が用いられている例。

10. 「街頭に出た紅い唇」「ビルディングの花『事務員』と『タイピスト』」「虚栄の殿堂に働く『女店員』」「歓楽の渦に漂ふ『エプロン女給』」(目次より)

11. 採用する側の希望は「職業を十分理解し、字が上手で、勤勉で、後始末をきちんとし、厚化粧でないこと」。

12. 女子の就職がふるわぬ理由として「結婚していない者や豊かでない者だけが働いているという時代錯誤な考え」をあげている。はたして現代はどうだろうか。

13. 「職業婦人の歓迎せらるる所以」と題し、「男子の下に隷属的關係にあつた女子は、男子に比して柔順ですから使い易い、支配し易い」と述べている。女性労働者が増えたとは言っても平等とはほど遠いことが分かる。

昭和戦後期

高度成長期には女性の労働者が増え、今でいうOLにあたるBG(ビジネスガール)という呼称もはやった。案内書では、就職案内を専門にした雑誌が創刊、職種別ではなく企業別の情報を掲載す

ることが多くなった。

17. 企業別に試験時期、採用実績、初任給などを掲載。募集方法は学校推薦が多い。

18・19. 就職の方法として案内書には縁故採用が真っ先に紹介されることが多い。他に職業紹介所や新聞の募集広告をみて応募する方法を勧めている。

20. 面接試験の注意のほかに履歴書の書き方(当時は縦書き)、面接当日の服装にまで細かいアドバイスがなされている。

平成

新卒女子大生の就職が一般的になり、案内書も日程や方法などを逐一解説するマニュアル本になってくる。しかし、一時は売り手市場とまで言われた就職戦線も、いわゆる「バブル崩壊」とともにあっけなく「氷河期」をむかえた。

22. 就職活動の生の情報や声をまとめようと、1980年に女子学生が創刊した雑誌。セクハラ面接に負けない方法、など本音を語っている。

◎明治期の資料は傷みが激しいため、マイクロ資料でのご利用になりますので、展示期間中でもご利用になれます。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)

ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

■国立国会図書館 ■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331■